

「アイヌの漆器に関する学際的研究」シンポジウム次第

2018年12月9日10時30分～16時40分

於：明治大学紫紺館4FS5、S6、S7会議室

- 10時30分—10時40分：「開会と趣旨・経緯説明」浅倉有子（上越教育大学）
- 10時40分—10時50分：「開会にあたって」室瀬和美（漆芸家、人間国宝）
- 10時50分—11時10分：「サハリン州郷土博物館の概要」Prof. Yury ALIN（サハリン州郷土博物館長）
- 11時10分—11時30分：「サハリン州郷土博物館所蔵の漆器について」
Irina Kim（サハリン州郷土博物館）
- 11時30分—11時45分：「アイヌ絵の中の漆器」佐々木利和（北海道大学）
- 11時45分—12時00分：「サハリン州郷土博物館所蔵漆器（No.2270資料群）の収集地について
～西海岸ライチシカ：来知志のこと～」(予定) 谷本晃久（北海道大学）
- 12時00分—13時00分：休憩
- 13時00分—13時15分：「サハリン・アイヌの漆器の特徴と科学分析」(予定) 宮腰哲雄（明治大学）
- 13時15分—13時30分：「北蝦夷地ウシヨロ場所における漆器の流入とアイヌの給料勘定」
東 俊佑（北海道博物館）
- 13時30分—13時45分：「蝦夷地で流通する『塗物類』に関する一考察」菅原慶郎（小樽市総合博物館）
- 13時45分—14時00分：「明治初年におけるアイヌ向け漆器の仕入れについて」
松本あづさ（藤女子大学）
- 14時00分—14時15分：「南部箔椀に関する基礎的考察」浅倉有子（上越教育大学）
- 14時15分—14時30分：「岩手県二戸市浄法寺で生産された可能性のある漆器について
—新ひだか町博物館所蔵資料の検討から—」藪中剛司（国立アイヌ民族博物館設立準備室）
- 14時30分—14時50分：休憩
- 14時50分—15時05分：「小樽市総合博物館所蔵漆器の科学分析」本多貴之（明治大学）
- 15時05分—15時20分：「小樽市総合博物館所蔵の漆器に用いられた金属の形態と加飾技法」
神谷嘉美（金沢大学）
- 15時20分—15時35分：「沈金熊図文トゥキ（杯）の木地形態」小林幸雄（元北海道開拓記念館）
- 15時35分—15時50分：休憩
- 15時50分—16時05分：「擦文・アイヌ文化における漆椀の実年代
—総合的な分析による交流史の復元—」清水香（新潟大学）
- 16時05分—16時20分：「『古い浄法寺塗の特徴』を巡って」中村弥生（浄法寺歴史民俗資料館）
- 16時20分—16時40分：室瀬和美（漆芸家、人間国宝） 「総評」

★紫紺館 住所：〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-22-14

懇親会：ナポリの下町食堂（地図参照）

時 間：17時00分—19時30分

参加費：4,500円

参加登録：2日前（12月7日(金)）までに t-honda@meiji.ac.jp にタイトルを『アイヌ懇親会参加希望』として、氏名、所属をご連絡ください。参加登録後、欠席することになった場合にはその旨をご連絡ください。

